

pL^AT_EX ニュース 第 c2 号

2016 年 06 月 発行

作成者： 日本語 T_EX 開発コミュニティ (<https://texjp.org/>)

1 この文書について

この文書はコミュニティ版 pL^AT_EX 2_ε <2016/06/10> について、pL^AT_EX 2_ε <2016/05/07> からの更新箇所をまとめたものです。以前のアスキー版の変更点については、plnews*.tex や Changes_asciimw.txt を参照してください。コミュニティ版の変更点については、plnewsc*.tex を参照してください。L^AT_EX レベルでの更新箇所は、L^AT_EX に付属の ltnews*.tex などを参照してください。

2 アクセント文字のバグ修正

pL^AT_EX <2016/05/07> で「縦組で「Å」が乱れるバグの修正」を導入しましたが、この変更で「すべての合成文字でリガチャやカーニングがきかない、周囲に \xkanjiskip が入らない、ucs パッケージが使えない」などという不具合が入ってしまいました。この問題を修正しました (Issue #5)。

3 8-bit フォントエンコーディングの欧文文字周囲のスペース

アスキー版 pL^AT_EX が作られた頃に比べて、最近では T1 エンコーディングなどの 8-bit フォントエンコーディングが多く用いられるようになりました。128-255 の文字は欧文文字ですので、新しいフォーマットでは周囲に \xkanjiskip が入るように kinsoku.tex で \xspcode=3 に設定しました。これは、奥村さんの jsclasses や田中さんの upL^AT_EX と同等の対処です (Issue #6)。

4 pfltrace パッケージの追加

L^AT_EX <2014/05/01> で、fltrace パッケージが追加されました。これは L^AT_EX カーネルのソースに隠れていたフロート配置アルゴリズムのトレースに使うコー

ドをパッケージの形に抽出したもの¹で、実は pL^AT_EX カーネルのソースにも同様に隠れていたコードがありました。これを取り出したものが pfltrace パッケージです。

フロートアルゴリズムの動作を確認したい場合は

```
\usepackage{pfltrace} \tracefloats
```

のように書きます。トレースを中断するには \tracefloatsoff を使い、現在のさまざまなフロートパラメータの値を確認するには \tracefloatvals を使います。実際の処理は fltrace パッケージを読み込むことで行い、pL^AT_EX 特有の変更のみが pfltrace パッケージに書かれています²。

5 その他の変更点

pL^AT_EX の概要については latex.pdf を、実際のコードは pldoc.pdf を参照してください。コードの変更履歴も pldoc.pdf の末尾で確認できます。

6 開発版とバグレポート先

コミュニティ版 pL^AT_EX と upL^AT_EX はアスキー版 pL^AT_EX とは異なりますので、バグレポートはアスキー宛てではなく、日本語 T_EX 開発コミュニティに報告してください。T_EX Forum や GitHub の Issue システムが利用できます。

- <https://github.com/texjorg/platex>
- <https://github.com/texjorg/uplatex>

¹参考：L^AT_EX News Issue 21、ltnews21.tex

²フォント選択コマンドのトレースに使う ptrace パッケージと tracefmt パッケージ、過去の pL^AT_EX のエミュレートに使う latex-release パッケージと latexrelease パッケージも、これと同様の関係になっています。